

道博協ニュース 第121号 (2017年10月31日発行)

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

第56回北海道博物館大会が帯広市で開催されました！

7月6日(木)・7日(金)に帯広百年記念館を会場に開催され、全道から学芸員やボランティアなどの博物館関係者122名が参加しました。

今回は1日目の午前中は総会のみ、午後から大会とし、開会式・表彰式に続いて研究大会というスケジュールとしました。

開会式に続き、表彰式では、旭川彫刻サポート隊、ボランティアの会「みゆうず」、帯広百年記念館博物館ボランティアの会が、博物館活動の推進に寄与・貢献したとして表彰されました。その後、日本博物館協会 半田昌之氏による「日本博物館協会事業について」、国立アイヌ民族博物館設立準備室 田村将人氏による「国立アイヌ民族博物館の展示計画について」の特別報告をいただきました。

14時30分からは、「博物館と情報～地域の宝を“掘り起こす・伝える・のこす”～」をテーマに、博物館が収蔵する情報(資料)の保存・活用を課題とした研究大会を行いました。

基調講演として、北海道大学総合博物館の山下俊介氏より「博物館資料とアーカイブ活動を資源化する」と題し、映像音声資料やフィールドノートなどの学術資料のアーカイブ化での取り組みの紹介があり、アーカイブの可能性についてお話いただきました。

事例報告は、それぞれ、“掘り起こす”“伝える”“のこす”をテーマに3名からいただきました。浦幌町立博物館の持田誠氏より、「本別空襲」に関する資料の中にあつた、猛火を逃れ川へ飛び込む際に手にした草花を押し花にしたものが、学芸員の調査によって学術性や存在価値を“掘り起こす”ことになった事例を踏まえ、博物館の収蔵庫の重要性と掘り起こしと情報発信の担い手としての学芸員の存在意義について報告がありました。

北広島市エコミュージアムセンターの畠 誠氏からは、北海道博物館特別展「ジオパークへ行こう！」出展に向けて行った「北広島マンモス大復活プロジェクト」を事例に、市民をまき



こみ、連携することで、郷土の資源を“伝える”方法について報告がありました。

平取町立二風谷アイヌ文化博物館の関根健司氏からは、北海道にとっての貴重な地域資源として、アイヌ文化やアイヌ語を、一般の方や子どもたちにわかりやすく伝え“のこす”試みについて報告がありました。小学校のアイヌ語学習で行う「アイヌ語ラジオ体操」やアイヌ語勉強会での実践を紹介しながら、“のこす”ことの意味や展望についてお話いただきました。

総合討論では、北海道博物館の青柳かつら氏がコーディネーターとなり、報告者3名から、活動を進める上での課題が提起され、その解決策などについての質疑応答が行われました。

2日目のエクスカージョンは、35度を超える猛暑日の中、帯広百年記念館と周辺の施設見学を行いました。帯広市児童会館では前川晃延館長より施設概要と科学展示室の紹介がありました。北海道立帯広美術館では、学芸員の光岡幸治氏よりオリエンテーションが行われ、その後、開催中の「放浪の天才画家 山下清展」を観覧しました。おびひろ動物園では、柚原和敏園長より、北海道で唯一のゾウ、ナナの飼育秘話など、園内の動物について解説をいただきました。

今回は、大会の「コンパクト化」を目指しましたが、効果の検証は今後の課題といたします。

(帯広百年記念館 学芸員 伊藤彩子)

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

書の殿堂をめざして

小原道城書道美術館は、2013年8月に開館した書道の専門美術館で、日本・中国の書作品や書道文化資料を展示紹介しています。

美術館開館には、書家小原道城の四十年以上にわたる資料収集、五十回以上に及ぶ訪中など、並々ならぬ努力と献身がありました。

その原動力になったのは、本物を見ることの意義ということでした。そのために当初美術館建設運動に奔走しますが、やっと実現した道立近代美術館には書部門が設置されず、大いに落胆しました。以来、独力ででも美術館実現への思いを固め、ほぼ3千点の資料を集めて、念願の美術館開設にこぎ着けたのは、小原道城が74歳の時でした。

開館以来、四か月ごとに特別展を実施してきましたが、テーマは日本近現代の書の流れを辿るものや、書道文化に親しむものが中心です。中でも、幕末維新の人々の書や近代文学者の書の展示は、多くの皆さんの関心を集めました。

現代社会では毛筆の書の実務的な意義は乏しいですが、かつては大きな役割を持っており、そこからごく自然に美術としての書作品も生まれ、それを尊重し鑑賞する風土も産み出されて



開催中の「幕末の三筆・市河米庵と一族門流展」の会場風景

きました。

現代の書は、芸術表現の一つであり、言葉としての意味を伝えるだけではなく、芸術としてそれを見る者に感動や共感をもたらしています。

当美術館は、内外・歴代の書家たちが産み出した数々の書作品の展示を通じて、書を志す人々にとっては、貴重な学びの場・大事な拠り所として、また、書に関心を持たれる方々にとっては、気軽に名蹟に触れ、書の魅力や奥深さを鑑賞していただける場として、些かなりとも役割を果たしていければと考えております。

(小原道城書道美術館 副館長 宮田成生)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

平成29年度道南ブロック博物館協議会研修会を実施しました！

平成29年7月11日(火)に市立函館博物館集会室にて、道南ブロック博物館施設等連絡協議会総会及び研修会を実施しました。

総会では今年度のコラムリレー・アドベンドカレンダーの内容や第8回郷土学講座についての協議を進めました。また、継続的に実施している「南北海道の文化財マップ」の入力作業を引き続き実施していく方向で固まったので、マップに新たな文化財が加わるのを楽しみにお待ちしております。

研修会では、小池田表具内装店代表の小池田亨氏を講師としてむかえ、「表具・紙資料の簡易



左から真・行・草

な修復について」と題して講演と裏打ちの実演をしていただきました。掛軸の形には真、行、草があり、種類は真の真、真の行、真の草といった具合に分かれ、行・草も同様に分かれることを小池田氏製作のミニチュア掛軸を用い、わ

かり易く解説をいただきました。参加者からは、形や種類によって使用用途に違いはあるかなど多くの質問が講師に寄せられました。

また、裏打ちの実演では普段なかなかみる事が出来ないプロの技を間近で見学し、自館に

ある資料の状態を伝え、どのように修復することが出来るかなどのアドバイスをいただき、とても充実した研修会となりました。

(せたな町教育委員会 学芸員 工藤 大)

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

日高の鉄道展～日高本線全線開通

80周年に思いをよせて～

2017年8月10日、C11形蒸気機関車207号機(以下、「C11-207」と記します。)、列車名「大樹」が、東武鬼怒川線(栃木県日光市)での運行を開始しました(写真1)。それは、鉄道産業文化遺産の保存と活用、及び日光・鬼怒川エリアの観光活力創出による地域活性化への貢献が目的の東武鉄道株式会社「SL復活運転プロジェクト」によるものです。



写真1 東武鬼怒川線を走るC11-207

(新ひだか町博物館所蔵)

C11-207とは、1941年12月26日に、日立製作所笠戸工場で製造された、石炭と水を機関車本体に積むタンク式の小型蒸気機関車です。その見た目の特徴は、前照灯を二つ付けているところで、それらは、霧の多い海岸線を走るためのものとも言われています。

C11-207は、1974年の廃車まで、日高本線をはじめ道内で一貫して使われ(写真2)、廃車後は、新ひだか町で静態保存されていましたが(写真3)、2000年からは、JR北海道が動態保存機として再び使い始め、列車名「SLニセコ



写真2 日高本線を走っていた頃のC11-207

(様似郷土館所蔵)

号」、「SL冬の湿原号」、「SL函館大沼号」として道内を走りました。

日高本線ゆかりのC11-207が復活した2017年は、日高本線全線開通80周年にあたります。これを記念して、新ひだか町博物館は『日高の鉄道』(7/9～翌1/28)、浦河町立郷土博物館は『日高本線と天馬街道』(8/2～18)、様似歴史研究「会所の会」は『鉄道写真展』(9/29～10/8)、と題し、それぞれ日高本線のあゆみをふりかえる鉄道展を開催しました。



写真3 新ひだか町で静態保存されていた頃の

C11-207 (新ひだか町博物館所蔵)

なお、日高本線（はじめ日高線）は、鉄道省が、1927年に苫小牧軽便鉄道株式会社（苫小牧～佐留太間）と日高拓殖鉄道株式会社（佐留太～静内間）を買収し、静内～様似間を新規敷設して、1937年8月10日に全線開通しました。

ところで、C11-207「大樹」の運転開始日と日高本線全線開通日が同日だったことは、全くの偶然でした。記念すべき日に、往時の姿その

ままに復活を遂げた C11-207 に特別な思いをよせて、新ひだか町博物館の『日高の鉄道』では、その復活の軌跡を、町内在住の元国鉄職員の方々や東武鉄道株式会社様の御協力により、紹介しています。展示は2018年1月28日（日）まで。皆様の御来館をお待ちしております。

（新ひだか町博物館 学芸員 斉藤大朋）

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

第25回道北地区博物館等連絡協議会巡回展「道北の文学者たち」展 開催

道北地方では、明治以降の地域の近代化の進展に伴い、同じく明治以降に成立していく近代文学を愛好する読者層が成立し、更には地域に根ざした特色ある文芸活動を展開した数多の人々を輩出してきました。彼らは中央文壇やその代表者たちの影響を受けながら、自らも作品を世に問い、ある者はその時代を代表する作家や詩人となり、ある者は地域の文芸文化の担い手となったのです。

また、道北の厳しくも豊かな生態系を基盤にした独特の風土や、それに適応した人々の情緒や生活は、中央文壇で活躍する多くの作家のインスピレーションを刺激し、明治期から現在まで、彼らの作品に取り上げ続けられています。

第25回道北地区博物館等連絡協議会巡回展「道北の文学者たち」展では、旭川文学資料館の協力の下、これまで同館が開催してきた企画展等の際に、同館で取り上げた小熊秀雄・今野大力・鈴木政輝等の道北ゆかりの詩人・歌人・作家に焦点を絞って紹介します。

それぞれの開催地の各施設が所蔵している地元ゆかりの文学者や文芸運動、文芸同人誌関連等の資料を組み合わせる展示を構成しています。

今回の巡回展開催にあたっては、旭川文学資料館から、同館が収蔵する貴重な資料や画像をご提供いただき、展示構成等についてもご助言いただきました。

開催期間は平成29年7月22日（土）から平成30年2月28日（水）までとなっており、これまでに和寒町公民館、天塩川歴史資料館、苫前町郷土資料館、中川町生涯学習センター、オホーツクミュージアムえさしを巡り、今後は下川町ふるさと交流館（10月21日（土）から11月5日（日）まで）、富良野市博物館（11月11日（土）から12月17日（日）まで）、美深町文化会館 COM100（平成30年2月3日（土）から2月28日（水）まで）を巡回する予定です。



小熊秀雄



今野大力

（旭川市博物館 藤原ふく美）

網走管内博物館連絡協議会 NEWS

平成29年度 網走管内博物館連絡協議会 第1回研修会開催報告

網走管内博物館連絡協議会では、平成29年8月19日、紋別市立博物館を会場に研修会を開催しました。内容は、同博物館で開催中の特別展「鴻之舞鉱山開山100周年」における講演会で、『鴻之舞鉱山』の著者である和田秀穂氏より鴻之舞鉱山の歴史について解説していただきました。

かつて東洋一と呼ばれた鴻之舞鉱山は、大正5年に藻釧川上流の元山地区で金鉱石の大露頭が発見され、鉱区出願続出の混乱の末、組合による共同経営で始まりました。しかし、組合は資金難となり、翌大正6年に住友が破格の90万円（現在の約90億円）で買収しました。住友による操業当初は、多額の設備投資や鉱石が低品位だったことで赤字が続き、閉山論も浮上しましたが、買山の立役者である本店支配人小倉正恒は粘り強く理事者を説得し、理事会は採鉱継続を決定しました。その後、第一次世界大戦後の不況や関東大震災の影響により金価格が上昇したことに加え、鴻之舞鉱山では高品位な金鉱床の相次ぐ発見によって本社直轄事業の柱となり、文字どおり住友を支える存在となりました。

第二次世界大戦中の昭和18年「金鉱業整備令」により鴻之舞鉱山は休山となりますが、昭和23年に再開、昭和29年、30年には年間約3トンの



和田秀穂氏による講演の様子

金を産出し絶頂期を迎えました。ところが、高度経済成長でGDPが拡大、金の価値は総体的に低下し、さらに鴻之舞鉱山の衰退等により経営は悪化します。昭和37年の人員整理により1000人以上いた職員は400人にまで減少し、そして昭和48年に鴻之舞鉱山は閉山を迎えることになりました。

講演の最後に和田氏は、現在廃墟となっている鴻之舞鉱山に何が問われているのかについて、鴻之舞鉱山の生みの親であり、育ての親でもある小倉正恒が大切にしたい「徳」から学び、日本人が持つ感性を生かして、鴻之舞の存在の証を再生することが答えになるのではないかと意見を述べられました。

鴻之舞鉱山の通史や当時の社会情勢、住友における鴻之舞鉱山の重要性など、多くの事を学ぶことができた研修会となりました。

(紋別市立博物館 業務係長 小林健一)

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

サイエンZOO 動物園科学の日を開催しました

円山動物園において、平成29年10月8日(日)～9日(月・祝)の2日間、「サイエンZOO 動物園科学の日」を開催いたしました。この催しは今年で5回目となり、札幌圏の中学校、高校、大学、一般の団体が、来園者に向け様々な参加型科学実験、工作、展示を行いました。動物園での開催という事もあり、生物観察や動物の科学的な観点での紹介に関する出展、動物の持つ能力を代替実験でご覧いただくサイエンスショーなども実施いたしました。



会場風景

円山動物園は平成24年より、科学技術振興機構(JST)の支援を受け構築した、札幌圏の博物館、科学館、図書館、動物園などによる地

域ネットワーク「CISE ネットワーク」に参加し、実物標本を使った体験ができる教材開発や、実物科学教育の提供を、他の施設の皆さんと一緒に行ってきました。このネットワークはJSTからの支援終了後も継続し、このサイエンZOOも連携施設との協働により実施しております。動物園として専門外の分野を含めた企画を実施するにあたり、各施設の専門家に助言、協力をいただけることは、企画の質を高めるだけでは

なく、参加する来園者に対しても伝わりやすい内容で実施できているかと思います。

サイエンZOOの他にも、北大総合博物館、札幌市豊平川さけ科学館、北海道大学獣医学部の協力を得て、恐竜・サケ・ヒグマに関するCISE ネットワーク サイエンスターリングも実施しておりますので、是非ご参加ください。

(札幌市円山動物園 朝倉卓也)

学芸職員部会 NEWS

平成29年度学芸職員部会研修会 を開催

平成29年度学芸職員部会研修会を9月21日・22日、岩内地方文化センター及び近隣の博物館施設を会場に開催しました。今年も60名を超える参加があり、館種を越えた活発な情報交換の場となりました。

今回は「資料を残す技術、伝える工夫」をテーマに、1日目は「資料の一括寄贈をどう管理するのか」として、小川原脩記念美術館・俱知安風土館での経験を基にした矢吹氏の報告と、近年生活資料の寄贈を受けて対応を模索する木田金次郎美術館学芸員岡部氏の報告を受けた後、二手に分かれて①教育分野技術研修「作品を3倍活かす教育活動(参加・実践)」(講師：西村計雄記念美術館学芸員磯崎氏)②保存分野技術研修「裏打ちによる紙資料の強化と補修(実演・体験)」(講師：内藤表具工房 内藤氏)を行いました。いずれの会場も、時間や人数の関係で実践の場面が限定的になったことが残念ではありましたが、各館園で応用が期待できる内容だけに参加された方々の積極的な姿勢が見られていました。

2日目は、エクスカージョンとして岩内町郷土資料館・荒井記念美術館・西村計雄記念美術館・かかし古里館・にしん御殿とまりを見学し、各館の展示や取組みについてご紹介いただきました。各館とも地域(郷土)と作品・資料を多様な視点で結びつける工夫があり、熱い想いのこもった案内に耳を傾けていました。



事例報告の様子

なお、初日の研修会の後に行われた総会では、事業報告・決算、事業案・予算、新役員が承認された他、昨年度出版した『北の学芸員とおきの《お宝ばなし》～北海道で残したいモノ、伝えたいコト～』(寿郎社)が順調に売り上げを伸ばしていることが報告され、次の企画への期待を残して新執行部へ体制が引き継がれました。



エクスカージョン(西村計雄記念美術館)

(北海道開拓の村 学芸員 細川健裕)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

第53回北海道青少年科学館連絡協議会職員研修会

9月28日、ジャパン GEMS (ジェムズ) センターの鴨川光研究員を講師にお招きし、「液体の探検～身近なもので好奇心を育てる」をテーマに職員研修会が開催され、会場となった釧路市こども遊学館には、北海道青少年科学館連絡協議会の加盟館担当者ら20名が参加しました。

GEMS (Great Explorations in Math and Science) とは、カリフォルニア大学バークレー校ローレンスホールオブサイエンスで開発された、子どもを対象とした科学と数学の参加体験型プログラムです。子どもが自ら考え、観察・実験することで、科学者のマインドを感じられる内容となっており、全国の幼稚園、学校、科学館などで実践されています。

今回の「液体の探検」ワークショップでは、中身の分からない14種類の液体を観察・実験し、分類しました。液体はどれも生活の中にあるものばかり。液体の特性にふれ、科学に必要な観察、実験、探求、比較、分類、記録、結論の導出といったスキルを身につけられる内容でした。

見慣れたものでも角度を変えることで探求を生み出すことができること、指導者自身が楽し



大人も夢中になる GEMS ワークショップ

んで共に探求することで子どもの学びがより効果的になっていくことを、研修を通じて体験しました。参加者からは、「一方的な知識の提供ではなく、探求という学びのプロセスを大切にす手法を事業に取り入れたい」という感想がありました。サイエンスショーや展示解説、実験教室などが、より探求を深められる内容となったなら、自立した学習者(アクティブラーナー)の育成につながるでしょう。どこの施設も大規模な展示改修などは難しいと思いますが、私たち職員の視点を変え、共に探求することで、これまでとは違う科学の魅力や楽しさを提供できる可能性を感じました。

(釧路市こども遊学館 ボランティア担当 小笠原忍)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

第33回東川町国際写真フェスティバルが開催されました

今年も東川町では7月25日から7月30日までをメイン会期(会期:7月25日～8月30日)として、第24回全国高等学校写真選手権大会〈写真甲子園2017〉、第33回東川町国際写真フェスティバルを開催いたしました。今年の写真の町東川賞は海外作家賞対象国ポーランド共和国のアンナ・オルオーヴスカ氏、国内作家賞の本橋成一氏、新人作家賞の野村佐紀子氏、特別作家賞の岡田敦氏、飛弾野数右衛門賞の小関与四郎氏が受賞され、授賞式にご出席いただき



ました。

メイン会期中には受賞作家フォーラムが写真の町東川賞受賞作家作品展会場の東川町文化ギャラリーで開催され、東川賞審査会委員や関係

者と受賞作家の貴重なお話を伺うことができました。写真の町東川賞受賞を祝う集いでは、町民が東川町産の新鮮な農産物を多く使った料理でもてなし、受賞者及び写真関係者、地元町民との交流を深め、今年も好評をいただきました。

期間中町内各地の建物や屋外で様々な写真作品展を開催し写真イベントと地元のどんとこい祭りが一体となり賑わいを見せた他、多くの企業様にも応援をいただき、町内各地で多様な事業を実施することができました。そしてイベントを支える全国から集った有志スタッフ「フォトフェスタふれんず」OG・OBや、写真甲子園OG・OBによるイベントも開催し、かつてのボランティアの方々や写真甲子園出場選手等が東川町に再集結しフェスティバルを盛り上げ

ていただきました。

そして今年はいよいよ11月全国公開の映画「写真甲子園 0.5秒の夏」の公開を記念し主題歌を歌う大黒摩季さんによるスペシャルライブがどんとこい祭りステージで開催され、12,000人もの方々の熱気に包まれて大きな盛り上がりを見せました。

今後も写真の町東川町から写真を軸とした創作活動への支援、文化情報の発信、並びに写真関係者や愛好家の方が多く集い、町民との交流などを通して「写真を愉しむ」フェスティバルを目指して一層励んでまいります。

(東川町文化ギャラリー 学芸員 吉里演子)

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 平成29年11月～平成30年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

●小原道城書道美術館 (011-522-2100)

- 12/6～3/31 企画展「かな饗宴～かな書家と名歌展」
- 12/16 ギャラリートーク「道展審査会員 御井の会主宰 八巻水鷗 演題：未定」
- 1/13 ギャラリートーク「読売書法展・道展審査会員 わか葉会主宰 阿部和加子 演題：美しいかなの鑑賞」
- 2/17 ギャラリートーク「毎日展・道展審査会員 すみれ会主宰 大川壽美子 演題：未定」
- 3/17 ギャラリートーク「国書展・毎日展・道展審査会員 抱墨会主宰 奥村素紅 演題：かなへの誘い」

●北海道立文学館 (011-511-7655)

- 9/9～11/19 特別展「〈サハリン島〉2017 アントン・チャーホフの遺産」
- 11/1 対談「『オリエンタルピアノ』を語る」
- 11/3 朗読会「古典の日記念朗読会」
- 11/4、12/10・23、1/8、2/3、3/3 わくわくこどもランド
- 11/9、12/14、2/8、3/8 朗読会「北の響 名作を声にのせて」
- 11/21～1/14 常設展「アーカイブ『北海道ゆかりの文学者』2017年の主な受賞とトピックス」
- 11/26 映画鑑賞「丹下左膳百万両の壺」
- 12/2～1/21 企画展「ファミリー文学館 絵本の動物園へようこそ」
- 12/2～1/21 第12回北海道小・中・高生短歌コンテスト
- 1/30～3/18 常設展「アーカイブ『大正ロマンのイメージ』」
- 2/3～3/25 特別展「有島武郎と未完の『星座』」
- 2/11 映画鑑賞「白痴」

●北海道大学総合博物館 (011-706-2658)

- 11/4 バイオミメティクス市民セミナー「サメとアザラシ、生態と動態」
 11/11 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「巨大津波に備える」
 12/2 バイオミメティクス市民セミナー「黒が大事！イカスミと鳥の構造色」
 12/9 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「口琴（ホムス）から広がるシベリア・サハの音世界」
 1/6 バイオミメティクス市民セミナー「形は機能？植物プランクトンと無生物の形」
 1/20 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「円山原始林の成り立ちと推移」
 2/3 バイオミメティクス市民セミナー「働かないアリと粘菌生活」
 2/10 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「記録映画を学術資料として活かす～北海道の稲作と伊藤誠哉教授のいもち病研究～」
 3/3 バイオミメティクス市民セミナー「鳥と魚、したたかな求愛」
 3/10 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「法学・政治学と社会—生殖補助医療と親子関係から—」

●北広島市エコミュージアムセンター (011-373-0188)

- 11/7～12/2 企画展「北海道のアンモナイト展」
 11/24 エコミュージアム講演会&ワークショップ「市民ボランティアについて考えよう！」
 12/16～3/18 企画展「郷土資料からたどる北広島の人々」
 12/17、1/28 企画展関連イベント「学芸員の展示案内」
 1/9 企画展関連イベント「むかしの教科書を読んでみよう」
 2～3月頃 企画展関連講座「歴史的公文書の保存と活用（仮）」
 3月上旬 カンジキ DE 自然観察
 3月中旬頃 企画展関連講座「指定文化財としての歴史的資料の保存と活用（仮）」

●北海道博物館 (011-898-0456)

- 10/20～12/24 企画テーマ展「弥永コレクション」
 11/3 文化の日講演会「自然とつきあう技術—民俗学からみた自然と人間—」
 11/3 特別イベント「ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ」
 11/11 ちゃれんが子どもクラブ「アイヌ音楽 うたおう・おどろう・ならそう・ひこう」
 11/19 ミュージアムカレッジ「アイヌ民族の刀帯—その変化を探る」
 11/26 ちゃれんがワークショップ「稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦！」
 12/3 ミュージアムカレッジ「江戸時代の日露紛争・フヴォストフ事件を読む」
 12/9 ちゃれんが子どもクラブ「文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり」
 12/17 ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願！？日本の画材で絵馬づくり」
 12/23、1/8 特別イベント「博物館のバックヤードを見てみよう」
 1/7・21、2/4 古文書講座「はじめての古文書講座①入門編（全3回）」
 1/13 ちゃれんが子どもクラブ「いのりのしるし？ 絵馬づくりにチャレンジ」
 1/14 ミュージアムカレッジ「1882年4月、襟裳岬近くで難破した英国船」
 1/28 ちゃれんがワークショップ「太古の絶滅生物・アンモナイトの復元」
 2/2～4/8 企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」
 2/10 ちゃれんが子どもクラブ「雪のなかで宝さがし」
 2/18、3/4・18 古文書講座「はじめての古文書講座②続編（全3回）」
 2/24 アイヌ語講座「見てみよう！カムイとアイヌの物語①」
 2/25 ミュージアムカレッジ「野幌周辺の動植物を探る～化石から現在まで～」
 3/3 ちゃれんが子どもクラブ「アイヌ語であそぼう！」
 3/10 アイヌ語講座「見てみよう！カムイとアイヌの物語②」
 3/17 講演会「アイヌの物語世界」

- 3/24 アイヌ語講座「見てみよう！カムイとアイヌの物語③」
 3/25 ミュージウムカレッジ「アイヌ音楽を知らない人のための アイヌ音楽入門講座」
- サケのふるさと 千歳水族館 (0123-42-3001)
 10/21～11/26 写真展「アラスカのサケたち～ベニザケ編～」
 11/11 体験イベント「鮭の日イベント」
 3/1～5/31 体験イベント「サケ稚魚放流体験」

後志

- 小樽市総合博物館 (0134-33-2523)
 7/23～11/5 企画展「百蛾繚乱(ひやくがりょうらん)ー完全公開！博物館の蛾類コレクションー」
 9/23～12/1 トピック展「小樽で発見！害虫だけど美しい？プラタナスグンバイー」
 11/3 講演「ここが見どころ！小樽の軟石」
 11/11 講演「運河館トピック展ギャラリートーク『あなたも発見！プラタナスグンバイ』」
 11/11・12・18・19 体験「展示車両シートかけ体験」
 11/11～23 作品展「平成29年度自由研究作品展」
 11/18～4/8 企画展「小樽冬色グラフィティ」
 11/19 体験教室「第2回 IchigoJam でプログラミングを体験しよう！」
 11/23 講演「音の実験」
- 西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)
 9/28～2/18 コレクション展「開館18周年記念展 パリの日本人画家・ニシムラについて」
 11/1 開館記念日 無料開放&プチ・マルシェ
 12/3 西村計雄命日 無料開放&カフェ・フルール
 1/4 講座「お正月だヨ！おやかでてづくりたこあげ大会」
 2/10～3/11 公募展「第14回 つたえる・つたわる 箱絵展」
- 一般財団法人 北一ヴェネツィア美術館 (0134-33-1717)
 9/12～12/4 特別展「ガラスの魔術師 ルチオ・ズバッコの世界」
 12/5～3/5 特別展「ヴェネツィアの祭典ーカーニバル展」
- 岩内郷土館 (0135-62-8020) ※12月～3月冬期休館
 9/30～11/19 企画展「夏目漱石生誕150年 岩内転籍125年記念企画展『夏目漱石と岩内』」
 11/5 イベント「『さわれる楽器博物館』が、やってくる！」(岩内地方文化センター)
- 一般財団法人 荒井記念美術館 (0135-63-1111) ※11/13～4月下旬 冬期休館
 8/23～11/12 常設展示「西村計雄秀作品展Ⅱ『西村計雄のカラーパレット』」
 9/13～11/12 常設展示「ピカソと版画の歴史」
- おたる水族館 (0135-33-1400)
 12/16～2/25 冬期営業

渡島

- 市立函館博物館 (0138-23-5480)
 9/16～11/5 企画展「新収蔵資料展」
 11/25 講座「SPレコードを聴いてみよう！」

●函館美術館 (0138-56-6311)

- 10/4～1/21 ミュージアム・コレクション「タッチ！—絵画と書にみる『筆触』/こころを筆にのせて—金子鷗亭と近代詩文書」
- 11/3～1/21 特別展「招き猫亭コレクション 猫まみれ展」
- 11/3 コンサート「《招き猫亭コレクション 猫まみれ展》に寄せて」
- 11/4、1/6・13 講座「ギャラリー・ツアー『めくるめく猫の世界へようこそ！』」
- 11/11 ワークショップ「猫まみれ展×松前高校書道部 書道パフォーマンス&ワークショップ」
- 11/25 ワークショップ「ハコビ・マジカル・ワークショップ『美術館でパンケーキ作りに挑戦！』」
- 12/2 講座「カフェ&トーク『猫とスイーツの甘〜い関係』」
- 12/9 ダンス「午後のタンゴ〜猫に誘われて〜」
- 12/23～1/21 ワークショップ「冬休みハコビ・アトリエ『松ぼっくりでミニ・オーナメントを作ろう！』」
- 1/7・14・21 読み聞かせ「絵本のよみきかせ（函館絵本の会 銀のふね）」
- 1/31～3/31 ミュージアム・コレクション「マリアージュ—文字とアートが出会うところ/高麗青磁と李朝白磁」
- 2/3・10、3/17 講座「ギャラリーツアー『追悼特別展 高倉健』」
- 2/24 ワークショップ「ハコビ・マジカル・ワークショップ『人形劇の人形をつくろう！』」
- 3/3 講座「ひなまつりイベント『ハコビでお茶会』」
- 3/9 講座「大人の遠足『居酒屋兆治』ロケ地てくてくツアー」

日高

●沙流川歴史館 (01457-2-4085)

- 9/29～11/26 特別展「クマの意匠展」

●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)

- 10/15～12/15 特別展「沙流に伝わるアイヌ口承文芸の継承」
- 11/23 講座「アイヌ語にふれてみよう」

上川

●士別市立博物館 (0165-22-3320)

- 11/11 講座「米づくり体験⑤」
- 11/18 講座「ジュニア博物館クラブ⑥」
- 12/9 講座「ジュニア博物館クラブ⑦」
- 12/16 クリスマスレクチャー
- 1/8 講座「サイエンスフェスティバル」
- 1/20 講座「米づくり体験⑥」
- 1/28 講座「ジュニア博物館クラブ⑧」
- 2/3～3/4 テーマ展「写真展～サハリン国境紀行」
- 2/10 夜間開館「雪あかりミュージアム」
- 2/24 講座「冬の自然観察会」
- 3/3 講座「ジュニア博物館クラブ⑨」
- 3/10 講座「天塩川流域の考古学」

●富良野市博物館 (富良野市生涯学習センター) (0167-42-2407)

- 11/11～12/17 巡回展「道北の文学者たち」
- 11/11～3/4 特別展「富良野アートギャラリー2017 コレクションギャラリー」

- 11/18・25、12/9 アートを楽しもう！～水彩画に挑戦
3/25 自然観察会「富良野の自然に親しむ集い 第6回 雪中散策～エゾシカを追って～」

●北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

- 11/1～3/31 常設展「HOKKAIDO 北の美術セレクション」
11/4 講演会「アーティスト・トーク」
11/4～1/14 特別展「開館35周年記念 プレミアム・コレクション」
1/11 ワークショップ「ウッディ☆工作アトリエ」
2/6～3/31 特別展「アート・クイズ・ギャラリー」

●旭川市博物館 (0166-69-2004)

- 11/3～12/17 企画展「古裂(こぎれ)あわせ～浜田智津子お細工物作品展」

●名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

- 11月 企画展「アイヌモシリ 山野の恵み～自然に生かされたアイヌに学ぶ～」
11月 企画展「木原康行版画展」
11月 室内行事「第6回小さな自然観察クラブ」
12月 企画展「なつかしの建物・街並み」
12月 企画展「お正月室内遊び展」
12月 室内行事「第7回小さな自然観察クラブ」
12月 観察会「杉並区小学生 名寄自然体験交流事業(名寄市教育委員会主催)」
1月 観察会「森のたんけん隊2018冬(北海道大学・幌加内町教育委員会共催)」
1月～2月 特別展「名寄ゆかりの冬季五輪選手と国体メモリアル展」
2月 コンサート「雪あかりコンサート2018」
2月～3月 企画展「ひな人形展」
3月 野外行事「体験教室『雪と遊ぼう』」
3月 企画展「平成29年度 新着資料展」

網走

●北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

- 10/28～11/26 ロビー展「北のメカニクス 狩猟ワナの仕組み」
11/4 解説会「ロビー展展示解説会」
11/11 はくぶつかんクラブ「カラフルまが玉づくり」
11/18 講座「狩りを学ぶ、文化を伝えるーアラスカ先住民社会の文化復興と野外教育」
11/25 講座「オホーツク文化の遺跡立地」
12/2～12/20 ロビー展「サハの伝説と昔話の世界ーナターリヤ・ネウストローエヴァ作品展」
12/10 展示解説&切り絵講習会「サハの昔話と切り絵」
12/16 はくぶつかんクラブ「カレンダーづくり」
12/17 講座「サハの伝統楽器“ホムス”を弾いてみようー口琴(こうきん)のおはなしと演奏体験」
1/6～1/21 ロビー展「オホーツクシリーズ⑩ 北の風景から」
1/20 講座「海外写真でたどる日本の近代捕鯨」
1/27 はくぶつかんクラブ「雪あそび」
2/3～3/31 企画展「永遠のジャッカ・ドフニー北方少数民族資料館ジャッカ・ドフニーの35年間ー」
2/17 はくぶつかんクラブ「バスケットづくり」
2/20 講習会「ウイルトタのミトン『マンバッカ』づくり」
2/24 講座「場所請負人と白老」

- 2/25 解説会「企画展展示解説会」
 3/10 はくぶつかんクラブ「イルカ文様の木箱づくり」
 3/11 講習会「ウイルト刺繍の財布作り」
 3/24 講座「先住民文化について語る、ということーオーストラリア アボリジニから
 ジャッカ・ドフニへの道ー」

●北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

- 11/3 青少年のための「科学の祭典」
 11/23 熟睡プラネタリウム
 12/9～10 高校生美術展
 12/23 プラネタリウム夜間特別投影
 12/23～2/12 企画展「トリックアート展」
 1/7 冬休みも文化センターで遊ぼう
 1/20 中垣哲也オーロラトークライブ
 2/10 プラネタリウム夜間特別投影
 3/17～25 美術館講座合同作品展

●美幌博物館 (0152-72-2160)

- 11/4～26 企画展「交通安全ポスター展」
 11/8・10 プチ工房「モザイクタイルの写真立て」
 11/25 講演会「町に住むリス、森に住むリス」
 11/26 観察会「町に住むリス、森に住むリス」
 12/9～1/21 企画展「おひろめコレクション展」
 12/10 体験会「アイヌ文化を体験！トンコリを弾いてみよう」
 12/20・22 プチ工房「フェルトボールのミニリース」
 1/10・12 プチ工房「紙すきを楽しもう」
 2/3～3/4 企画展「冬期作品展」
 2/14・16 プチ工房「オープン粘土のキーホルダー」
 2/24・25 モノ作り講座「折り雛をつくろう」
 3/14・16 プチ工房「ヘンプのプレスレット」
 3/24 講演会「私たちのふるさと情報」
 3/24～7/1 特別展「大美博展 達」

十勝

●帯広百年記念館 (0155-24-5352)

- 11/11 博物館講座「けもの道から分かること」
 11/14～12/3 ロビー展「マッチ箱展」
 12/16 博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
 1/13～2/4 ロビー展「十勝・帯広 むかしの絵はがき展」
 1/19～2/4 美術展「第36回 郷土美術展」
 1/27 博物館講座「大昔のとがち」
 2/10～3/4 ロビー展「ひな人形展」
 2/11～3/4 ロビー展「デッサン教室作品展」
 2/17 博物館講座「フィールドのなかの博物館」
 3/3～25 企画展「新着資料展」
 3/10 博物館講座「学芸員のしごと 学芸活動報告会」

釧路

●釧路市立博物館 (0154-41-5809)

- 9/2～11/5 企画展「冷たい海の大冒険!!!～関勝則が写す北の海の生き物～」
 10/1 体験講座「第28回博物館まつり(博物館友の会主催)」
 10/7・11/4・12/2 観察会「ハーバリウム霧多布(於:霧多布湿原センター)」
 10/15 講演会「くしろの海のいきもの撮影秘話」
 10/15・11/19・12/17 観察会「春採湖畔探鳥会・カモ展関連観察会」
 11/3～12/3 企画展「アイヌ木綿衣特別展示」
 11/11～1/21 企画展「カモにも事情がありまして…～餌から恋の三角関係まで～」
 12/27 体験講座「おそなえもちをつくろう」
 1/13・14 体験講座「まが玉をつくろう」
 1/27～3/18 企画展「釧路市立博物館館報60年の歴史(仮)」
 2/17 観察会「春採湖畔冬のいきもの観察会」
 2～3月 講演会「学芸員トーク」
 3月 体験講座「化石クリーニング教室」

事務局からのお知らせ

■伊達市開拓記念館からのお知らせ

会員館である伊達市開拓記念館は、現在建設中の「だて歴史文化ミュージアム」(平成31年春開館予定)の開館準備に伴い、平成29年11月30日をもって閉館します。つきましては、11月30日まで無休で開館していますので、最後の見学にぜひ、お越しください。

伊達市開拓記念館 伊達市梅本町61-2 電話 0142-23-2061

開館時間 午前9時から午後5時まで(無休)

入館料 大人260円 中高大生200円 小学生130円

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金(会費)で運営されています。年会費は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。以下の口座までお願いいたします(振込手数料はご負担くださいますようお願い致します)。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 (普) 0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ!北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp>

道博協ニュース 第121号

発行日 2017年10月31日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com